Interview

〝夢〟を〝カタチ〟にして『レーヴ・アンフィニ～無限な夢～』をリリース

シンガーソングライター　葉月さん

ニューアルバム「レーヴ・アンフィニ～無限な夢～」
（問）HARU RECORDS
☎042-439-9200

愛するあなたへ　伝えたいことがあるの／もしも生きることに疲れ果ててしまった時は／こどもの頃見た　夢の世界のように／小さな幸せ　あなたのそばにあることを思い出してね
あなたは夢そのもの　夢はあなたそのもの／想い続けて　描き続けて／あなたの夢　叶いますように

葉月（本名・川瀬葉子）さんが歌う『レーヴ・アンフィニ～無限な夢～』（冒頭の歌詞）は限りなく優しく、心に染み入る歌だ。上質の絹地にくるまれたような、透明感あふれるシルキーヴォイスに誰もが癒されるだろう。作詞、作曲ともに葉月さんの作品である。

この曲が収められたアルバム『レーヴ・アンフィニ～無限な夢～』が西東京市にあるHARU RECORDSから11月7日に発売された。14曲すべてがオリジナル曲で、その中の12曲が葉月さんの作詞作曲、または作曲の作品である。多彩なアンサンブルとピアノ弾き語りで、これまでの葉月さんの音楽活動の集大成ともいえる魅力あふれるアルバムだ。

生まれも育ちも武蔵野の面影が残る東久留米市柳窪。小さな頃から、木々に訪れる小鳥の歌声を友にし、木登りが大好き、豊かな自然の中で活発な少女時代を過ごした。

4歳からエレクトーン教室へ通い、中学2年の時、師事していたエレクトーンの先生がヤマハのコンクールで優勝したことがきっかけで、将来音楽の道に進みたいと決心。小平高校入学後にピアノを始める。高校1年の時見に行ったオペラ「魔笛」のアリアに感激し、声楽家を目指す。音楽大学に入るために、声楽、ピアノ、ソルフェージュとレッスン三昧の毎日だったという。こうして見事、桐朋学園大学声楽科に合格した。

挫折を乗り越え、シンガーソングライターの道へ

夢叶い、ソプラノ歌手の道へと進んでいた大学2年のある日突然、不幸が襲う。バッタリ声が出なくなったのだ。自称、「練習魔」であった葉月さんの喉の使いすぎが原因だった。「どん底に突き落とされ、もうボロボロで泣き暮らしていました」と当時を振り返る。

医者から手術を勧められたが、手術はせず、声楽家で耳鼻咽喉科のドクター考案による、手技を用いた医学療法に通った。東洋医学、セラピーなど何でも試した。どうにか声が出せるようになったものの、「いっぱい、いっぱい」の状態。そのためソプラノ歌手を断念し、演奏家としての道を選んだ。

ピアノをさらに勉強したいと、桐朋学園大学短期大学部ピアノ科に再入学。仕事と学業を両立させ、ドイツのフライブルグ音楽大学への海外研修にも参加した。アンサンブルピアニストとして、多くの声楽家、合唱団と共演。さまざまなジャンルのアーティストをコラボさせた舞台公演や演奏会などをプロデュースする会社を立ち上げ、活躍の場を広げていった。

作曲家としても多くの作品を手がけている。ピアノの前に座り、瞑想しつつ鍵盤をパラパラ叩く。「言葉が自然に浮かんできて、心の中にあるものが、芋づる式にでてきます。言葉にも音程があるので、メロディが決まってくるのですが、平行して、一度に何曲かできるときもあるんですよ」とさりげなく、控え目に微笑みながら話す。その卓越した才能は眩いばかりだ。

そんな葉月さんに転機がやってく

■コンサート予定（近隣のみ）
12月 7日（金）コール田無　18時30分
12月16日（日）ギャラリー青らんぎ（小平）15時
12月21日（金）ラウンジバーFu-an（小平）20時
詳しくは
http://ameblo.jp/labellejavotte0801/

る。ある友人から「これまでのプロデュースや伴奏と違う方向で、好きな歌を歌ってみれば?」と熱心に勧められたのだ。すると彼女はライブハウスの老舗、江古田マーキーのオーディションを受けに行ったのである。モチロン合格して、新たにシンガーソングライターとしての活動がスタートした。ピアノ弾き語りの初ライブが2008年9月のこと。クラシック演奏をやっていた頃のファンも大勢来てくれた。以後はとんとん拍子、翌年にはファーストアルバム『ピンクの豚』をリリースした。

田島氏との出会い、CDの誕生

今回発売の『レーヴ・アンフィニ〜無限な夢〜』はひとつの出会いから生まれた。昨年暮れ、人を通して田無にある、スタジオトライブの忘年会に出席。請われて、オリジナル曲「祈り」を弾き語りした。それを聴いた、スタジオトライブの田島国雄社長は「心洗われる美しい歌声、人柄がわかるような魅力に溢れた歌」と感動を受けた。田島さんはスタジオとともにHARU RECORDSを運営、若いミュージシャンを支援し、CDを多数制作販売している。

偶然の出会いは必然だったのかもしれない。その4ヶ月後にはアルバムの制作が始まった。葉月さんの類いまれな音楽性を広く世に示したいと望んだ田島さんと、自身の再出発とファンからのCD発売要望に応えたい、と願う葉月さんの思いが響き合い、多くの演奏者が結集し、5ヶ月かけて完成。音楽プロデューサーは小平在住のギタリストでアレンジャーの蓮見昭夫さん。総合プロデュースの田島さんもドラムで参加。「西東京市から全国へ発信したい」それがスタッフの願いだ。

「このCDは私の愛しい宝物です。みなさまのお力を戴いて、描き続けていた夢が叶いました。すべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです」泣き虫だという葉月さんの瞳がうるんだように見えた。ライブには山口県から駆けつけるファンもいるほど。歌だけではなく、その人間性ー謙虚でひたむき、人への限りない優しさーが人を惹きつけてやまない。病院や施設での音楽療法にも力を入れている。

「音楽は自分そのもの。音楽を通してみなさまのお役に立ちたい」

音楽の女神ミューズの化身のように思える、葉月さんが奏でるピアノと歌声で寒さを暖めてみませんか。

（東久留米市在住）